

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-ア	観光リゾート産業の振興	施策	① 島々の個性や魅力を生かした着地型観光プログラム等の開発
			施策の小項目名	○着地型観光プログラム等の開発支援
主な取組	宮古広域公園整備事業		実施計画記載頁	331
対応する主な課題	②離島観光の国際化や多様化する観光ニーズに対応するためには、離島の魅力ある資源を生かした観光プログラムの創出、国内外における離島の認知度向上、新たな旅行市場の開拓等の課題に適切に対応する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
伊良部大橋の開通により一体となった宮古圏域において、観光振興と定住環境の整備に寄与する広域的なレクリエーションの場として、宮古広域公園を整備する。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
実施主体	県、宮古島市					
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【098-866-2408】					
		基本設計、環境アセス、用地補償、整備				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	宮古広域公園基本設計等事業費						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 沖縄県環境影響評価条例に基づく環境影響評価準備書作成等を実施した。 ○R元(H31)年度: 都市計画図書及び環境影響評価書を作成する。
							県単等	委託	
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: — ○R元(H31)年度: —
		—	—	—	—	—	—		

活動指標名	基本設計、環境アセス、用地補償、整備				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		—	—	—	—	環境アセス の実施	—	100.0%	58,974	順調
活動指標名	—				H30年度					
実績値										
活動指標名	—				H30年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況					反映状況					
平成30年度の取組改善案										
・当該公園の基本方針「海と海辺を活かした公園」を踏まえ、多様なレクリエーション需要に対応した公園の施設設計を行うため、関係機関等との協議体制をつくり検討を進める。					・関係機関で構成する「宮古広域公園整備推進会議」を設置し、公園予定区域に係る区域等、課題について情報共有を行った。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・宮古島の観光スポットとして根付きつつある民間施設が公園予定地内に位置しており、有効活用方法を検討する必要がある。

○外部環境の変化

・平良港における「平良港国際旅客船拠点形成港湾」の指定や下地島空港の「みやこ下地島空港ターミナル」開業に伴い、近年、宮古圏域における入域観光客は大幅に増加している。観光リゾート地としての更なる魅力向上を図るためにも、広域的なレクリエーション需要に対応した広域公園の整備に努める必要がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・当該公園の基本方針(海と海辺を活かした公園)を踏まえ、多様なレクリエーション需要に対応した公園施設を検討する。

4 取組の改善案(Action)

・基本方針「海と海辺を活かした公園」を踏まえ、多様なレクリエーション需要に対応した公園の早期整備に向け、引き続き推進会議で連携を図り、都市計画決定の手続きを進める。